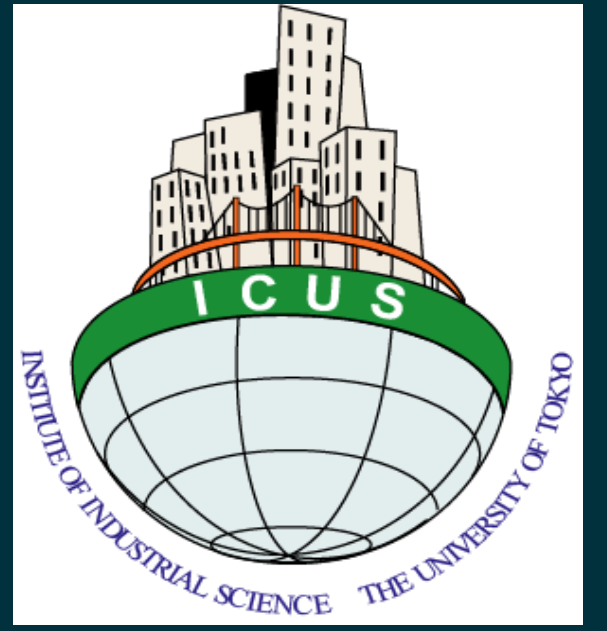


# 福祉施設の立地状況が 地域の災害時要援護者支援に与える 影響の調査



Effects of Location of Welfare Facilities  
on the Support for Vulnerable People in Disaster

http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/

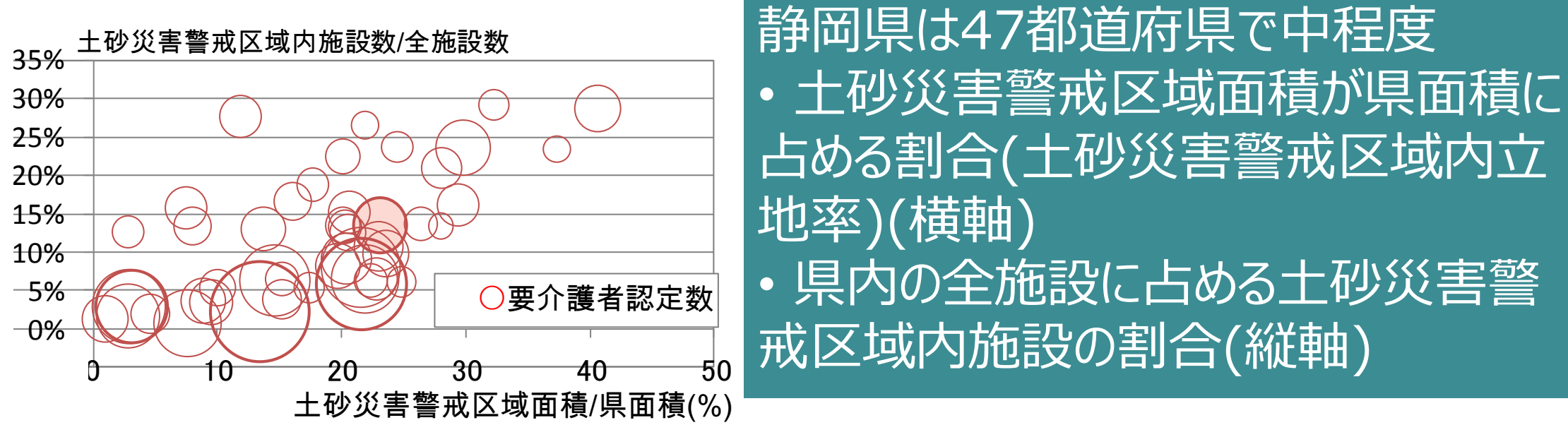
## はじめに

\*災害時要援護者：平常時から何らかのハンディをもっており…他者による援護を必要とする人々 [日本赤十字社, 2006]

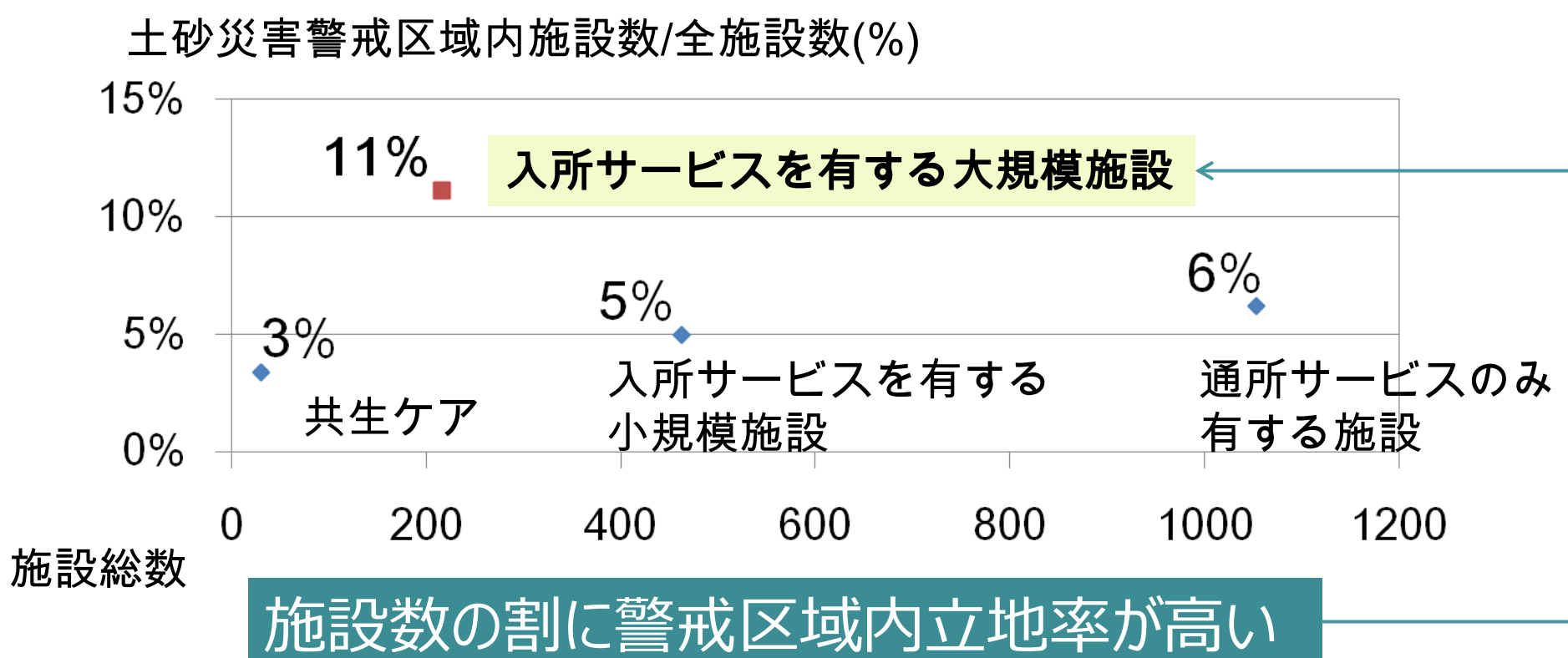
近年、福祉施設は地域の災害時要援護者支援を担う福祉避難所としての活躍が期待されている。しかし、福祉施設では利用者のケアと災害時要援護者支援の両立が困難であり負担が大きいことが現状である。更に、福祉施設は市街地を避け土砂災害の危険のある場所に立地する傾向があると指摘されており、これが施設の災害対応力の発揮を妨げている可能性がある。そこで本研究では静岡県の高齢者福祉施設を対象として①施設の立地状況の実態 ②立地理由 ③立地状況が地域における在宅の災害時要援護者支援に与える影響を調査し、危険地への立地を防ぐ施策や、立地を考慮した在宅の災害時要援護者支援対策の方向性に関する知見を抽出する。

## 調査対象の概要

### ■高齢者福祉施設の土砂災害警戒区域内立地率の比較

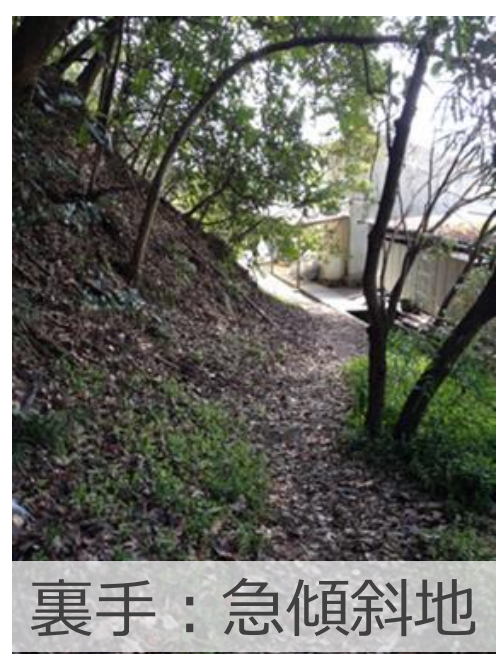


### ■高齢者福祉施設の種類と静岡県における立地状況



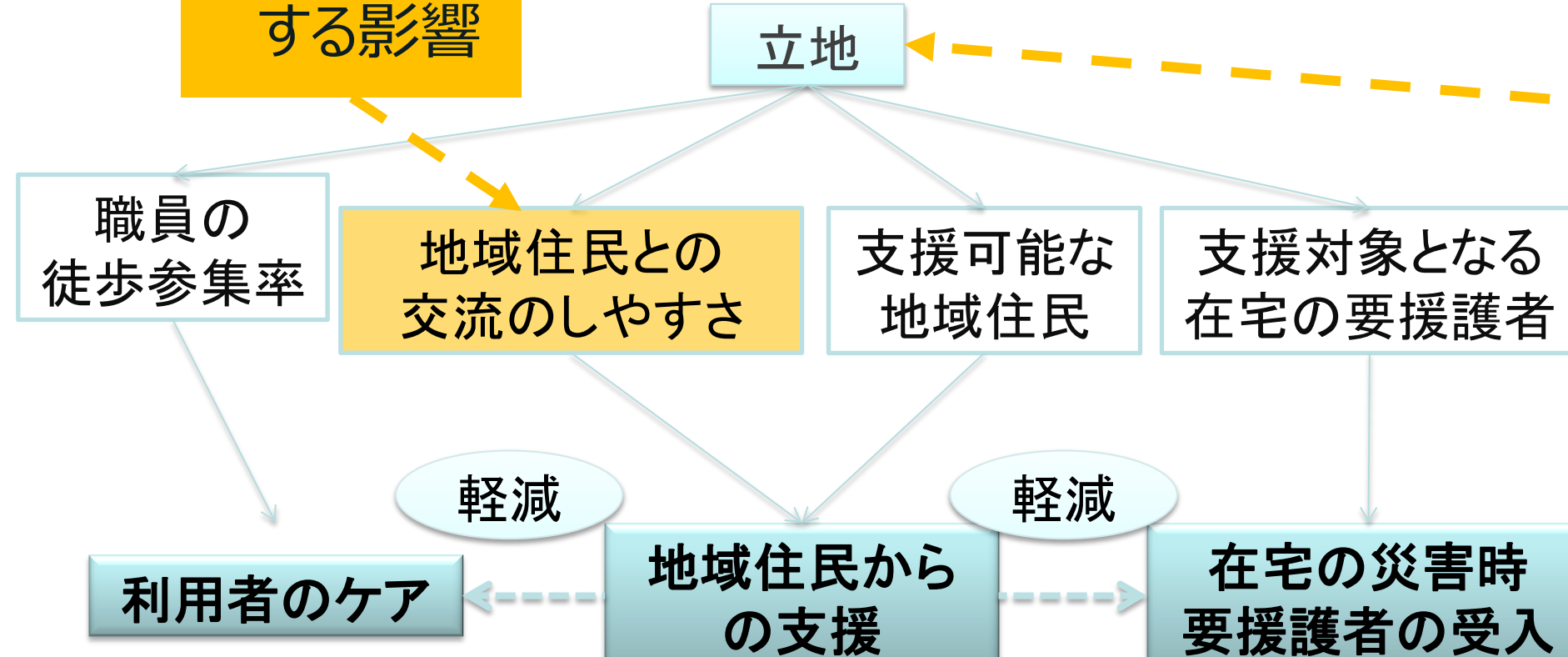
## インタビュー調査を通じた影響の抽出

(2013年2/20~21 実施)



- ・避難路が土砂崩れの危険
- ・近隣住民の属性の変化という外的要因により地域住民との交流が困難に
- ・職員：車で約30分かけ通勤→災害時の参集困難

### 調査対象とする影響



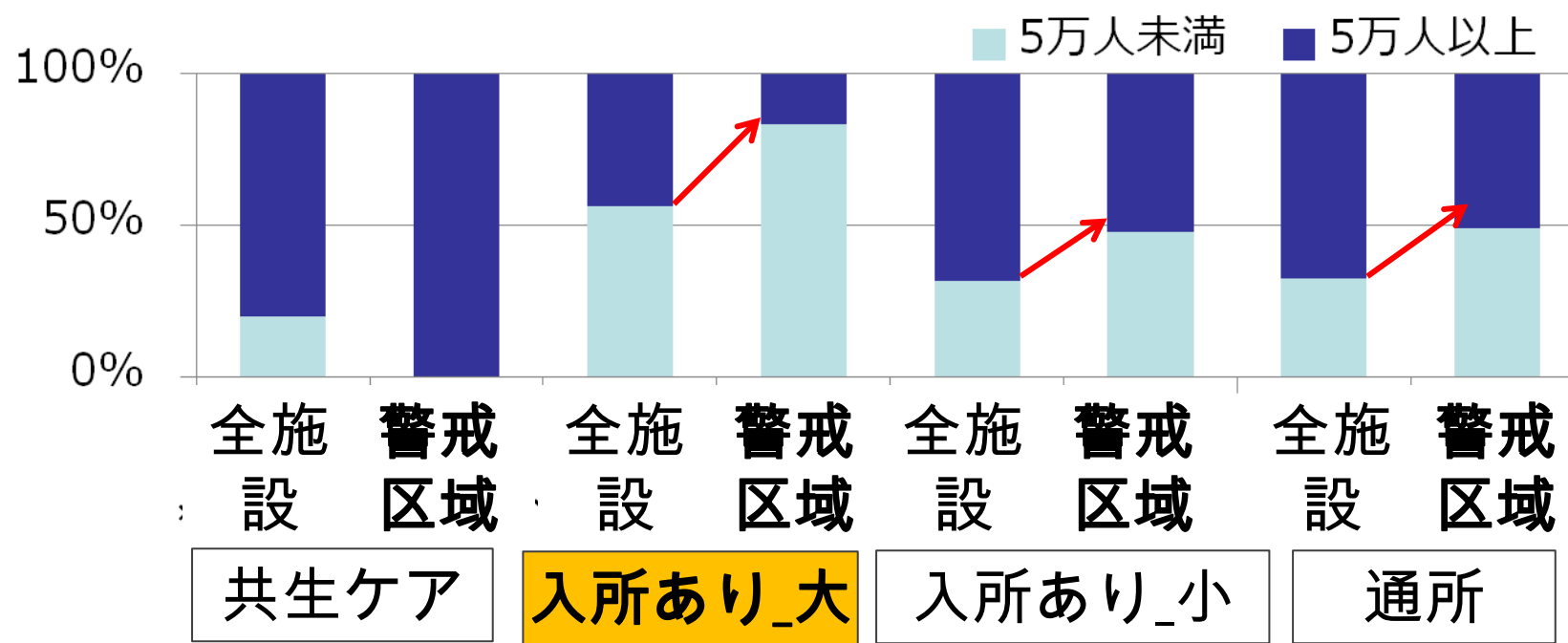
### 立地状況分類における視点

1. ハザード的な立地状況：土砂災害警戒区域内か否か
2. コミュニティ的な立地状況  
\* 全て施設から半径2km以内

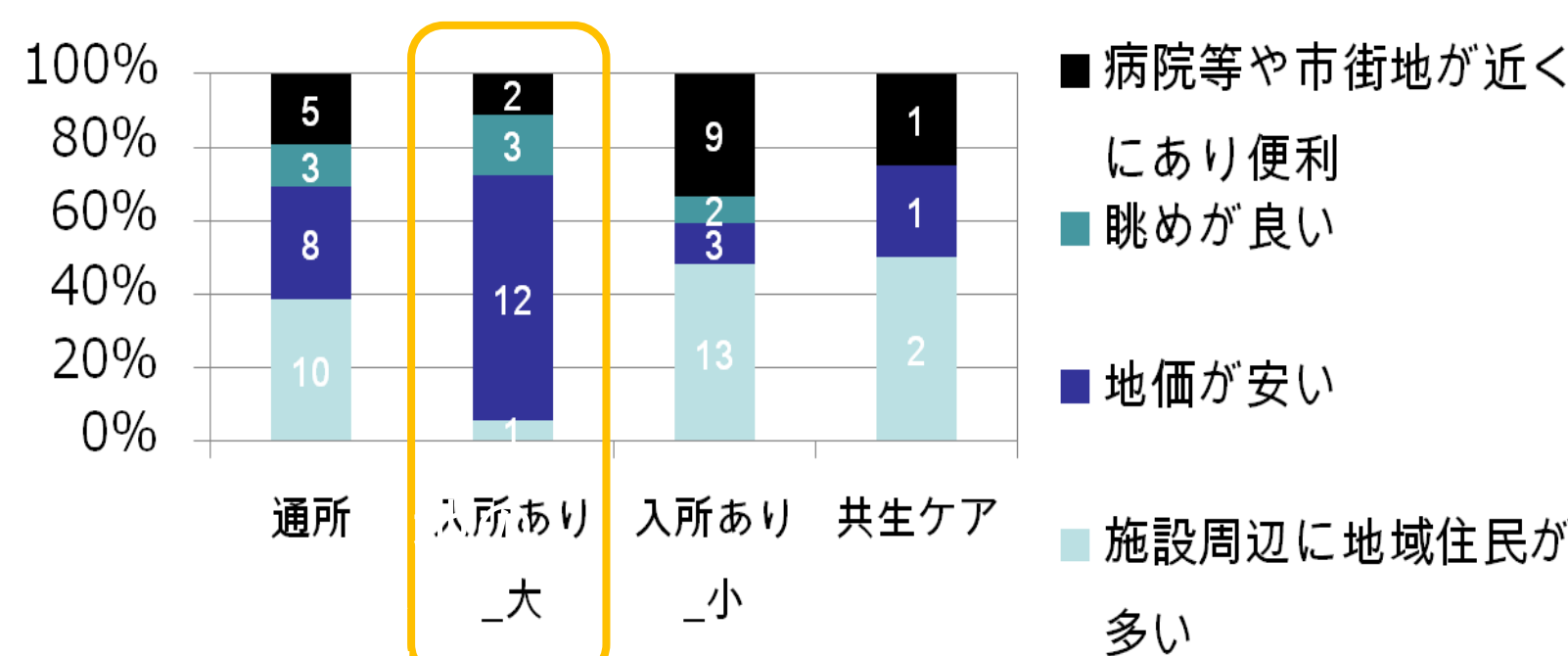
|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 周辺人口   | 人口/施設数                |
| 高齢人口比率 | 高齢人口/生産年齢人口           |
| 土地利用   | 郊外地, 低層分布, 低層密集, 高層建物 |

## 警戒区域内立地施設の特徴

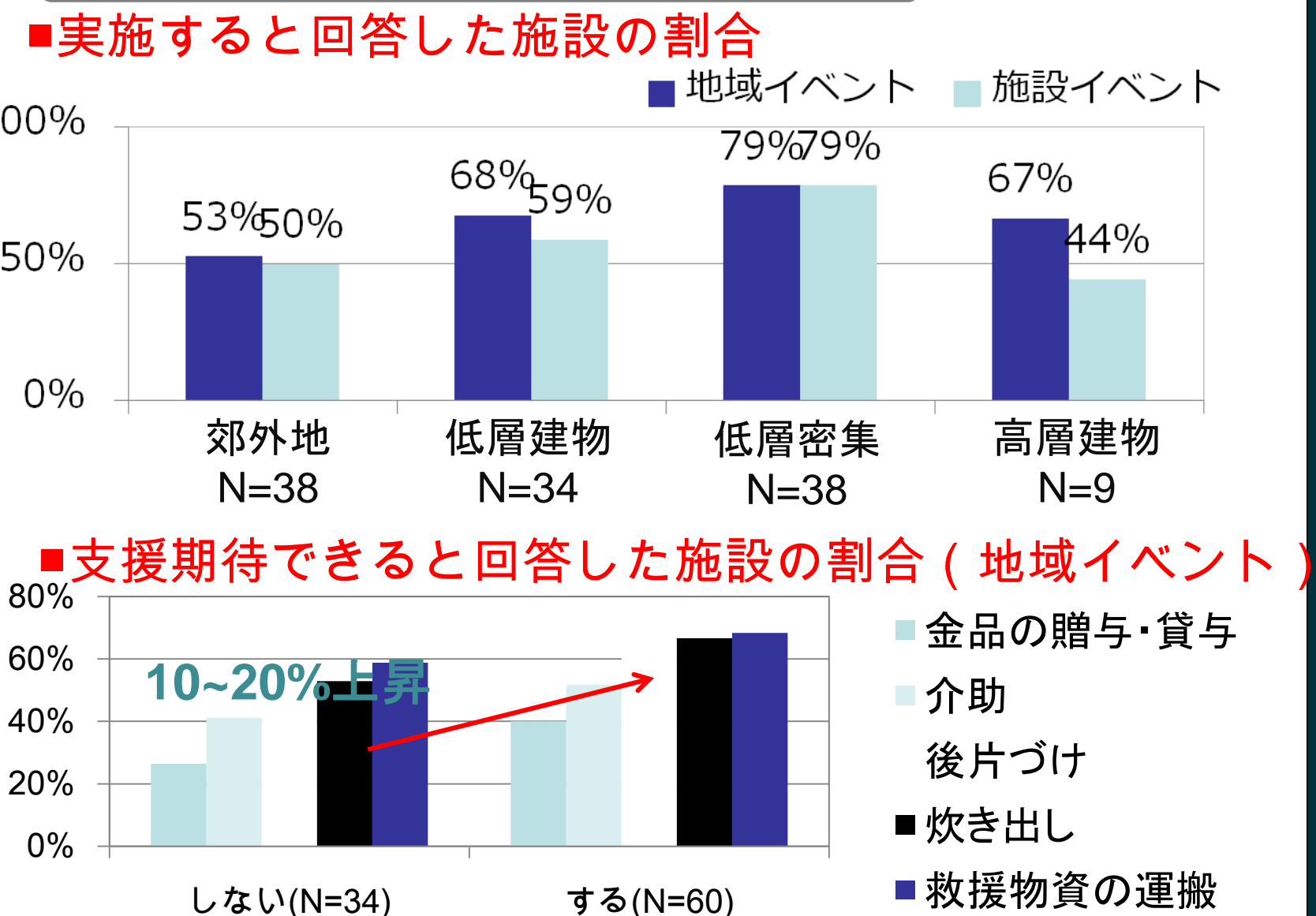
### ■全施設と警戒区域内施設の施設周辺人口の比較



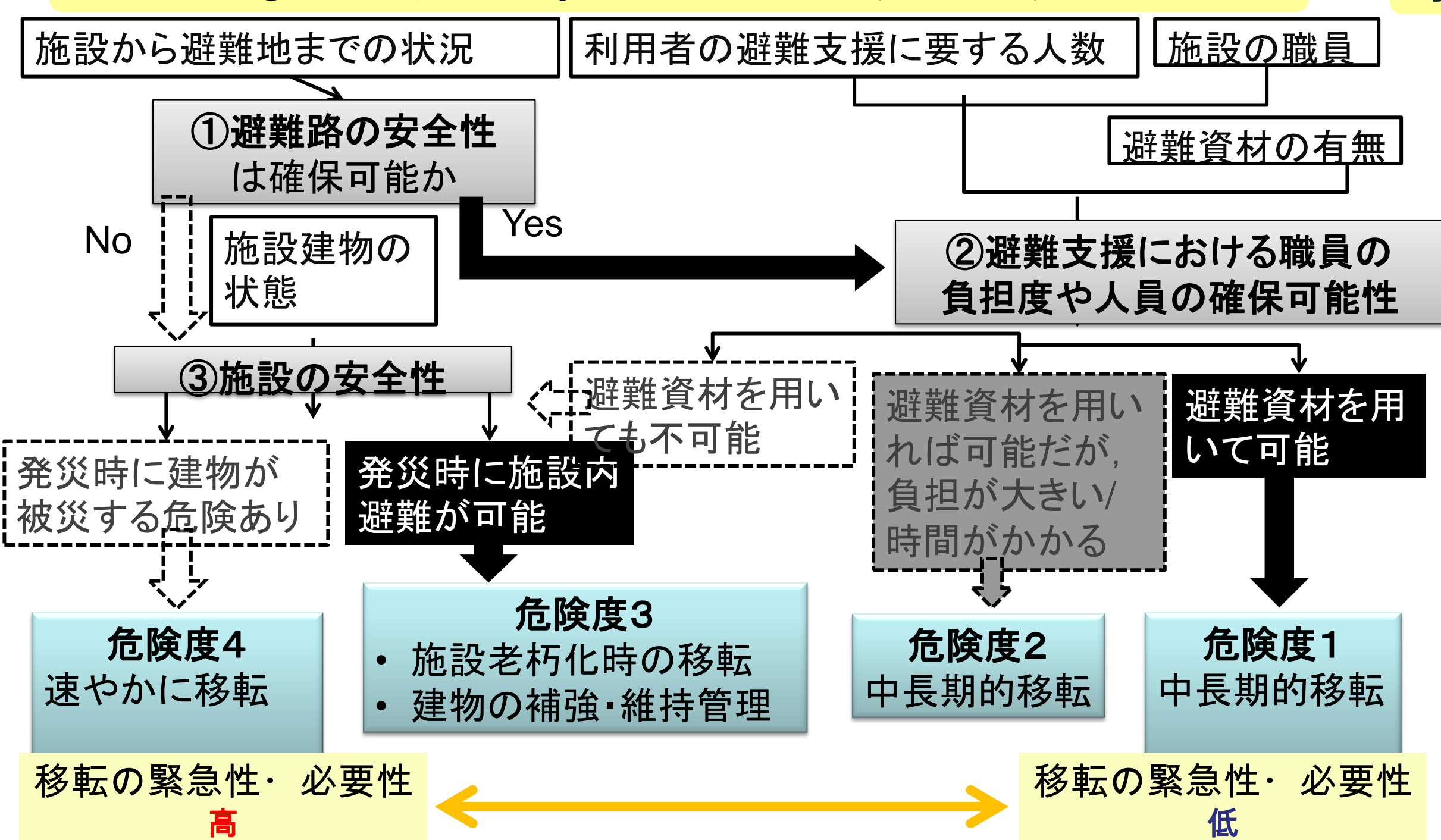
## 立地理由



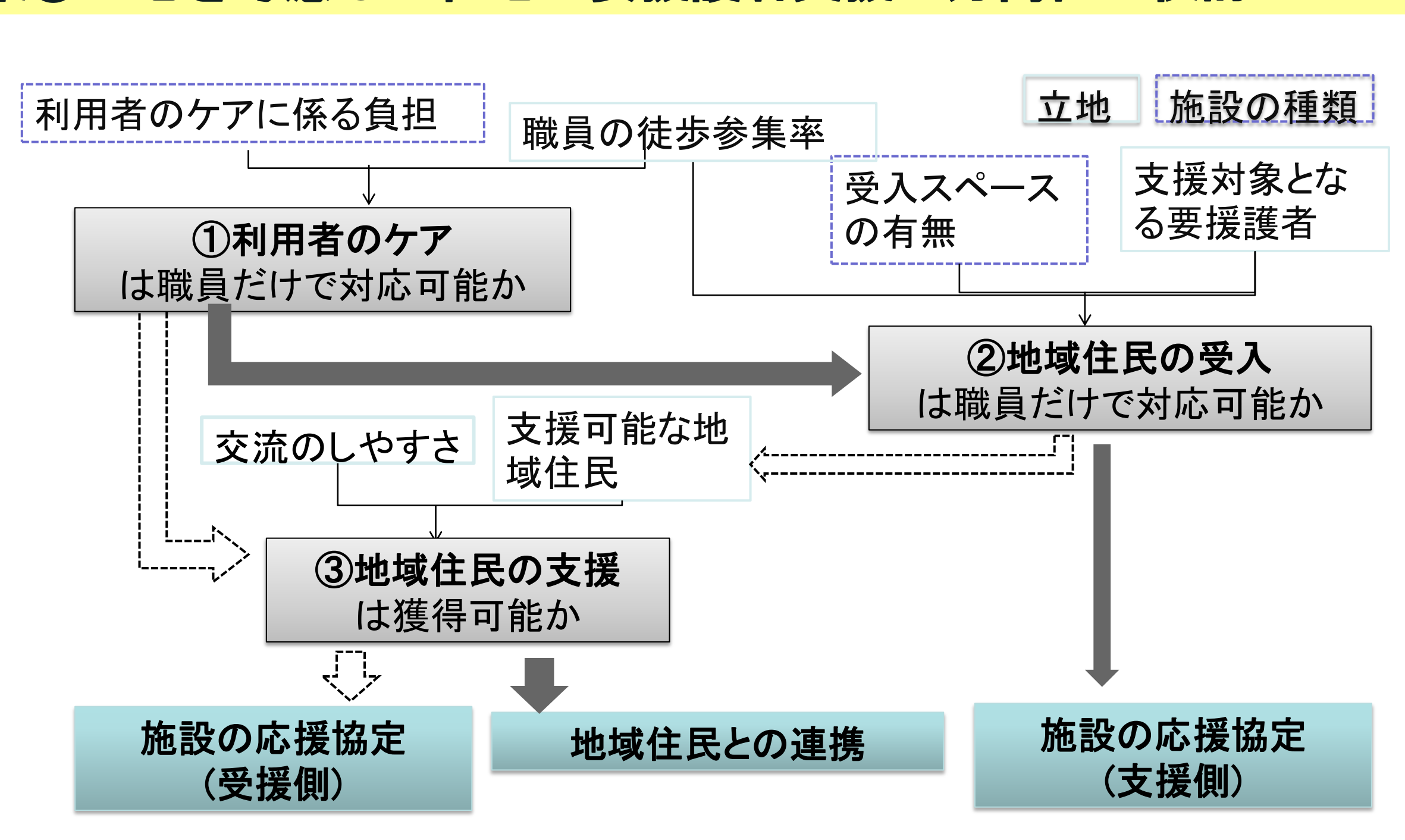
## 立地状況の影響



## 提案① 土砂災害警戒区域内施設の分類フロー



## 提案② 立地を考慮した在宅の要援護者支援の方向性の検討フロー



施設の建物の状態や運営状況から災害時の避難状況を想定し、当該立地状況は受容可能か客観的に評価することで、移転誘導や立地規制が容易になる

立地状況や施設の種類に応じて地域住民や施設同士で協力することで、施設の負担の少ない形で地域の災害時要援護者支援が実現できる

## まとめ

調査の結果、入所サービスのある大規模施設が地価の安さを理由として周辺人口の少ない場所に立地しており、その結果として警戒区域内に立地する可能性が高くなるという状況が伺えた。一方で、低層建物が密集した地域に立地している施設は地域交流が行える可能性が高く、災害時に地域住民に頼りやすいという事が示唆された。以上より、施設の危険な立地を防ぐ手段として、防災意識の啓発以上に、災害時の状況を客観的に評価する基準が有効である可能性がある。また、立地状況によって地域住民との交流状況が異なることを利用して、災害時の地域住民との連携を検討したり、災害時の役割を通じて地域住民の福祉施設に対する評価が高まることが期待される。